

わらしべ会フォトコンテスト2021優秀作品決定!!

わらしべ会フォトコンテスト2021の優秀作品が決まりました。優秀作品と撮影者は以下のとおりです。

今年もコロナ禍でこれと言った行事ができなかったですが、各事業所の日常の取り組みが光る良作がありました。来年もわらしべ会は「わたしたち（職員）が社会に伝えたいこと」をテーマにわらしべ会フォトコンテストを実施します。

※（優秀作品を撮影した職員へ）

優秀作品を撮影した職員は、本日中（12月13日）に本部に連絡し、副賞受け取りの説明を受けること。本日中に連絡のない場合、副賞受け取りの権利は（ひょっとしたら）自動的に消滅かもしれないので注意すること。

【優秀作品】

優秀作品には、賞状とオスカー像、副賞が送られます。



（はる：撮影神澤さん）

芝生の上でストレッチ気持ちいい～。

（寸評）

- ・楽しそうな雰囲気、構図、光の加減、どれをとってもすばらしい作品です。表情もいいですね。それを見つめている人が余計に楽しそうな雰囲気を伝えています。
- ・利用者の表情に光があたって笑顔を強調しています。
- ・後ろの人がいないとスッキリするかもしれませんが、この作品は「いる」ことで、グループで行ったことを伝えています。



（身障：撮影宇津木さん）

緑のトンネルを歩く。

（寸評）

- ・知らない人が見たら「こうやって歩行するのか」と思ってくれることでしょうか。車いすが写っていることで、この利用者が通常は車いす移動の人であることを伝えています。
- ・「緑のトンネル」という言葉で、わらしべ園の自然もより一層表現してくれています。



(第二：撮影池脇さん)

当日の朝は喧嘩していた二人ですが、ソフトの練習を通じて仲直りしたようです。

(寸評)

- ・喧嘩していた二人が、急に仲直り。「こういうことあるよね」と思わず納得し、くすっと笑ってしまいました。
- ・写真としては普通の構図かもしれませんが、撮影者(支援者)の思いが伝わります。「朝の喧嘩はなんやったん？」っていう感じですか。



(グルホ：撮影市川さん)

「花火大会」世話人さんが、手作りのうちわで盛り上げています。グループホームの世話人さんは温かい家庭の雰囲気や、手作りのイベントで、いつも利用者さんの生活を支えています。

(寸評)

- ・「少人数で暮らす」っていうのもいいものだなと思わせる1枚です。一人暮らしでなく、大人数でなく、少人数。グループホームの良さを伝えているように思います。



(セルフ：撮影長野さん)

お城の石垣清掃？いえいえ山田池公園清掃の様子です。

(寸評)

- ・同じ格好の人が3人並んで同じことをしているだけで、なんか面白い。写真がリズムカルで、またコミカルにも見えます。
- ・別に笑顔が写っているわけでない、でもなんか楽しい。不思議な写真です。

【佳作】

優秀作品には届きませんでしたが、こちらもすばらしい作品ぞろいでした。撮影者には賞状が贈られます。



(身障：撮影川久保さん)

それ引け、よいしょ！

(寸評)

- ・支援ってこういうことです。少しでも実体験してもらおう。そのために知恵を使い、力を使い、協力する。だから利用者も集中して取り組む。
- ・職員採用の募集広告に使わせていただきます。



(はる：撮影神澤さん)

さつまいも掘り抜けそうで抜けない。

(寸評)

- ・上の写真と同じく、別にイモをとるだけなら職員がやったほうが早い。でもわざわざひもをつけて、また持ちやすいように取手をつける。そして体を固定してあげて一緒に引っ張る。そうすると利用者もがんばる。
- ・障害福祉の支援とはこういうものです。



(村野：撮影藤田さん)

パラパラ・・・手作りうちわで職員と利用者が踊っています。

(寸評)

- ・グループホームの写真もそうですが、日本人はうちわを持つと踊りたくなるのでしょうか。何か新しい発見がある作品に出会うとうれしいです。
- ・特別な空間でなく普段の食堂で楽しそうにしているところが、日常の雰囲気伝えていきます。



(イwert：撮影藤谷さん)

真夏の洗車風景です。汗だくになりながら、いつも使用している車両をキレイにしました。

(寸評)

- ・下からのアングルで撮ることで、空が画面の3分の2を占め、晴天を強調することに成功しています。
- ・就労支援の日常を明るい晴天の構図で写し、利用者の仕事を健康的なイメージで伝えています。

以上です。